

令和元年度 第6回 昭島市社会教育委員会議・要点録

開催日時／会場 令和元年9月19日（木）午後7時00分～9時00分 昭和会館
出席者 谷部議長、中村副議長、齋藤委員、長瀬委員、稲垣委員、濱田委員
二ノ宮リム委員
欠席者 佐伯委員、松本委員、吉村委員
事務局 川崎社会教育係長、来住野社会教育主事

1 開 会

<配付資料>

資料1 第1ブロック研修会の開催について 他

- ・令和元年度未来をひらく
- ・令和元年度青少年健全育成活動基本方針
- ・昭島市における非行少年等の概況
- ・市民活動講座の参加者を募集
- ・昭島の社会教育
- ・東京文化財ウィーク 2019（特別公開・企画事業編）
- ・東京文化財ウィーク 2019（通年公開編）

2 議 題

(1) 第30期社会教育委員会議のテーマについて

委員 先月の会議の中で話題になった「平成31年度全国学力・学習状況調査 意識調査」について、了承を得たので資料を配付したい。地域により、地域の行事への参加率に差がある。前回、地方においては伝統文化が引き継がれていくこともあって、参加率が高いのではないかという分析もあったが、市内の状況を見ると昭島市は全国の数値まではいけないものの都よりも高い状況にある。

議長 西部においては、多摩辺中が後からできたことにより、学校区が変更になったことにより、通ってくる生徒の住んでいる地域の状況が変化したことが影響しているのではないかと考える。聞いた話では、一度消滅した盆踊りをその地域の市議会議員の方々が中心となって復活させたところもあり、みなさん揃いの浴衣などで郷土芸能祭に参加されるなど盛り上がっているところもある。これから20年後30年後には新しいお祭をつくった人たちの子どもたちが育っていくと、郷土愛が醸成されるのではないだろうか。

委員 同じ市内でも地域によって違うというのは興味深い。何か要因があるのではないか。

委員 何月実施の調査か。

委員 4月同日に中学3年生と小学6年生を対象に行い、本データは中学3年生のものだ。

委員 2つめのグラフから読み取れることは、「地域や社会を良くするために何をすべきか考えることがある」が、「何かやりたい」と参加する意欲はあるがその機会に恵まれて

いないということではないだろうか。

委員 3割から4割の子供たちが「考えている、どちらかといえば考えている」と答えているのは素晴らしいと思う。

委員 本日配付された冊子「未来をひらく」、その発表を聞いたが、大人のみなさん領きながら耳を傾けておられた。学校の代表である生徒たちだが、校内で選ばれた生徒たちのものを読んでみても、しっかりと「まち」に視線を向けており、高齢者や弱い立場の人たちのことを取り上げているものが多い。この冊子の中に彼らが何をすべきかと考えているかについて書いてある。彼らにはアイデアはあり、発表はできるが、具体的にどうしていけばよいのかがすぐに理想的なものに結び付かないにしても関わりを持たせることができるのではと思う。

委員 数年前、各校の代表委員会や生徒会の生徒たちを集め、いじめをテーマに会議を実施したと聞いた。そういう場が継続的にできたらよいと思う。

委員 何年か前にいじめ問題を考えて、各学校でスローガンやいじめを撲滅するような働きかけをしていた。今も活動自体は継続していて、小学生が中学校に訪ねてきた時に生徒会の生徒がいじめは良くないという寸劇で啓発するような活動をしている。

委員 いじめだけでなく、地域の課題を取り上げて全体のことを考える会ができれば面白い。

委員 前回、「若者」というキーワードが出ていた。子どもたちが活躍できるようにするにはというものも出ていた。

委員 先日開催された社会教育学会で「持続可能な社会づくりと『対話』の力」というテーマで報告した。なぜ対話に焦点を当てたかという、持続可能な社会や色々な問題を解決しながら地域を良くしていく時、小さなことから大きなことまで価値観が違う人たちが地域をつくっていくと対立がおきる。しばしばその対立は見なかったことにして、力の強い人の意向に沿って地域がつくられていきがちだ。しかし実際にそれを続けていると権力者の思うように進み、多様な声は反映されず若者の声もなかったことにして進んでしまう。こういったことを避けるために一人ひとりが対話の文化に慣れることが大切で、対話に参画する力をつけることが必要だと考えている。立場の違う人と話す時に対等な立場で話す姿勢を持つことや、相手の考えや感じていることを尊重すること、自分の考えを率直に表現することなどの力を育む場として、社会教育は非常に大きな可能性を持っているという報告をした。日本社会の中では対立は避けるべきものとされているように思う。子どもから大人まで対話の力をつけていくために、それにフォーカスした講座をすることもあるが、日頃から対話の場を設け、そこに参加し、自分の意見を話したり人の意見を聞いたりすることに慣れることが必要ではないか。あきしま会議でも、もっと具体的なことを話し合う場になっていけば、対話の力が必要となってくるだろう。また、多様な立場の人と話すことで市民に対話の力がついていく可能性もある。あきしま会議は前回の提言の内容を社会教育委員が地で実践しているいい例だと思う。

議長 テーマということで何か一つたたき台をと思ひ考えてきた。第26期建議「昭島市における地域活性化に向けた社会教育」について、第4章の内容を検証してはどうか。またその成果でもあるあきしま会議の評価も同時にやってはどうか。第26期建議の検証

とあきしま会議の評価についてというテーマはどうか。

委員 前回話したように、第26期の建議では、「こういう昭島にしたい」という行政側の話を聞いたうえで、「それならば、市民としてこういうことができる」という声を市民からもらって実現していく場をつくる、というのが最初の「場をつくる」の発想だった。それが変化して現在「あきしま会議」となり、さらに、若い人を交えた場をつくってはどうかという意見が出てきていると思う。

今日配られた「未来をひらく」を見ると小・中学生は結構自分の住んでいるまちについて思いや考えがあり、彼らの志はそのまま成長していけばよりよい社会になるのではないか。その気持ちがつながっていくためには、今から彼らが参加できる仕組みがあるとよい。青少年のニーズも取り入れるといいのではないか。その中で対話の力が活かされていけばいいと思った。

議長 具体的に各提案を皆さん社会教育委員としてどう感じているのか、他のところでアンケートで聞いてみるということをしたらどうか。あきしま会議で、市民と社会教育委員と行政が集って語り合う中で、情報を共有化したり、問題点を抽出したりして、すぐに解決に結びつかなくても、方向性の共有ができればよいのではないかと考えている。

(2) 視察研修について

議長 今期のテーマにも関連するかと思うが、視察研修先を検討していきたい。

委員 今年度中に教育福祉総合センター「アキシマエンス」が開館するにあたり、その施設の有効利用について社会教育委員として提案できればよいと考える。そこで、他地域の複合施設などの見学も視察先候補としてあげてはどうかと思った。施設を市民に有意義に利用してもらえるような施設にするために、例えば市民の声が運営など何らかの形で反映されていたり、市民が実際に活動している様子を見学して参考にし、「アキシマエンス」が市民の集まりやすい場なればよいと思っている。

報告

(1) 都市社連協第1・第2・第4ブロック研修会について(資料1)

※事務局より内容を説明

第2ブロック研修会 令和元年10月26日(土) 午後1時半～午後4時

次回

10月24日(木) 午後7時より 昭和会館(部屋の確保できました)

11月21日(木) 午後7時より 昭和会館